

HELLO M a B y C L U B

VOL. **49** 2009.4



T O P I C

sato clinic

安全なお産のために

去る2月14日、「周産期のリスクマネジメント」をメインテーマに滋賀県母性衛生学会（産科医師と助産師の学会）が彦根市で開催されました。その中のシンポジウムで私（佐藤院長）は開業産科医を代表して、佐藤クリニックが行っている安全なお産のための対策を発表しました。

というわけで、今回はその学会で発表した内容、つまり「安全なお産」のために佐藤クリニックが心がけていること、現場で取り組んでいることをみなさんにお話したいと思います。

ちょっと難しいかもしれませんがなるべくわかりやすくお話ししますのでガマンして読んでください。

『周産期医療』の現状

トラブルを抱えることなく無事にお産を迎えることができる方は個人の産婦人科が受け皿となり、何らかのリスクがある場合や、緊急事態が起こった場合は高度で専門的な医療が行える大きな病院が受け皿となる…というように、全国各地では個人産院から大学病院まで自分たちが担うべきことを分担し、日々診療が行われています。

しかし、最近「周産期医療」における総合的な医療体制のバランスが崩れて、緊急事態が発生したにもかかわらず大きな病院での受け入れ困難という事態が起きているのも事実です。



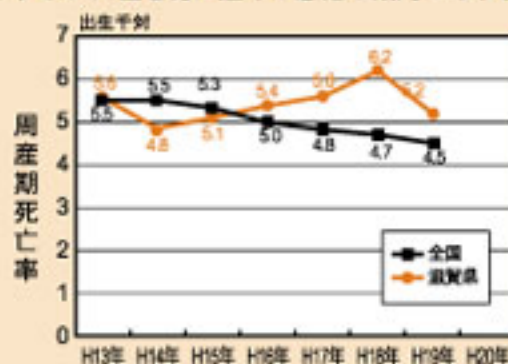
ご存じのように奈良県で分娩中の女性が脳内出血を起こし、十数件の病院で受け入れできなくて、残念な結果になってしまったということがありました。このようなことは全国的に起こりやすくなっているのが現状で、滋賀県でも例外ではありません。

★周産期というのは、妊娠22週以降、出産後1週間以内のことです。この時期はお母さんが何らかの病気を持っているためにお産にリスクをとともう合併症妊娠や、早産（22週以降37週未満の分娩）、お産が影響して赤ちゃんに何らかの異常が起こるケース、あるいは先天性の異常が原因でトラブルが発生するなど、お母さん・胎児や新生児の命に関わる事態が発生する可能性があります。

sato clinic

滋賀県の周産期死亡率は全国の下位

周産期の安全性を示す指標として、「周産期死亡率」という指標がありますが、滋賀県は実は残念なことに「周産期死亡率」がとても高く、全国順位で言うと平成16年で47都道府県中36位、平成17年で42位、平成18年では44位と特に近年は悪化の傾向にあります。



安全なお産のために 佐藤クリニックが取り組んでいること

安全なお産のためには、緊急事態が起こってしまう前に、初期段階でお産におけるリスクを発見し、いかに予防していくか？ということが重要だと考えています。そのために佐藤クリニックでは開院以来、一見正常と思われる妊婦の方についても、病院ではできないような手間と時間をかけて診察することで、これらの課題に向き合っています。

その中で今回は、切迫早産の早期発見と周産期死亡を防ぐ対策について説明します。

1. 切迫早産の早期発見

●佐藤クリニックの早産率は通常の半分以下
一般に早産率というのは全体の約5%とされていますが、当院では最近5年間の平均で2.4%と半分以下となっており、大変高い評価を受けています。この差は、妊婦健診に来られた全員に対し、毎回超音波で子宮頸管長を測定し、早産の徴候を早く見つけることで、お母さん自身の自覚を促し、さらには生活指導や何らかの治療を早めに始めているためだと考えています。

●子宮頸管長測定を全妊婦さんに実施することは通常なかなかできない

子宮頸管の長さが短ければ早産の徴候があると判断するのですが、実際に全妊婦さんに健診のたび毎回行っている産院は大変少ないという現状があります。なぜなら、子宮頸管長が多少短くてもその85%は妊

娠末期までもつという研究報告があり、また検査そのものに手間やお金がかかるという医療における社会的な要因が影響して全妊婦さんには行われないのです。しかし残りの15%の人はそうではないという状態は軽視できないと考え、私はその15%の方を何とか助けたいという意思のもとに全妊婦さんに無料で検査を行っています。実際に子宮頸管長を測定していると、特に切迫早産徴候がない人でも頸管長の短縮が見られることがよくあります。そんな方に、「おなかがよく張っていませんか」と尋ねてみると、「やっぱりそうですか」とか「そういえば張っている」とかの返事が返ってきます。ようするに、特に初産婦の人などは「こんなものだと思っていた」とか「張るということがどんな感覚かわからなかった」という人が多く、自覚症状だけでの判断では早期発見が遅れる可能性が高いというのが現状です。

●早産率が低いとNICUに余裕ができる

いま新生児集中治療室(NICU)で治療を受けている赤ちゃんの大半は早産で生まれてきた赤ちゃんです。もし日本全国の産婦人科で毎回このような検査を実施すれば、現在5%の早産率を当院ですでに証明されているように約2%台まで下げることが可能となってきます。重症妊婦の受け入れ困難な理由の多くはNICUが満床だという理由です。

当院のように早産率を下げることでできれば、今の医療体制のままでも、かなりNICUに余裕ができるので評価されているのです。

2. 周産期死亡を避けるための検査方法

●日本の周産期死亡率は世界一低い

日本の周産期死亡率の低さは世界一の水準ですが、それでも出生1000人に対し4.5人の割合(平成19年)で赤ちゃんが亡くなってしまおうという結果です。それはお腹の中にいる間に亡くなったり、先天性の異常で亡くなったりする場合があります、どうしてもある一定のレベルで起こってしまいます。この周産期死亡率においても、日本は世界のトップレベルで赤ちゃんに対する安全度はすごく高いものとなっていますが、さらにもっと安全性を高めるために、佐藤クリニックではどのような努力をしているかということの説明します。

★周産期死亡率とは、「出生1000に対して妊娠満22週以降の死産と生後1週間未満の早期新生児死亡の割合」をいいます。日本における周産期死亡率は年々減少し、過去25年間で約4分の1、過去12年間で約2分の1に減少し、最近の日本の周産期死亡率の少なさは、群を抜いて世界一の水準となっています。これは、日本の周産期医療が世界に誇れる数値と考えられます。

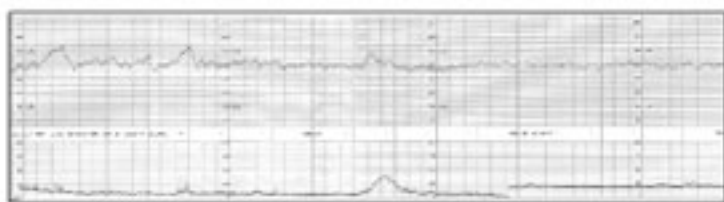
●正常妊娠でも200人に一人は危険

当院では正常妊娠か、あるいは何かあってもとても軽い症状で正常妊娠に近い状態の方のお産を扱うようにしていますが、では妊娠経過が正常なら大丈夫か？という、実はそうではありません。

200人に1人の割合で、陣痛で来院された時にはすでにとても赤ちゃんの状態が悪い場合があります。それが現実です。そのような状況を防ぐためには、やはり最悪の結果を招く前に、いかに早く妊娠中に異常を発見することができるか？ということが課題となってくるのです。

●赤ちゃんの元気さを確認するNST

妊婦健診では「お腹の中の赤ちゃんが元気かどうか？」ということを確認するため、超音波で検査したり赤ちゃんの心拍を確認したりします。赤ちゃんの心拍を確認するのに、お腹を出してトコトコとなる心音を聞きますが、大抵の産婦人科医院や病院では一般的に10秒から20秒といったわりと短い時間での検査になります。実はそれだけでは判定できないことが多いので、佐藤クリニックではNSTというモニター検査を20分から40分かけて妊娠33週以降の妊婦さんすべてに行なっています。



(参考資料:NST検査による正常な心拍のパターン)

この検査をすることで、赤ちゃんがお腹の中で元気になっているというパターンができれば、「赤ちゃんは元気です」ということが断定できます。そこでもし、何か心配な要素を含むパターンを示せば、さらに詳しく検査を行なうという方法をとっています。

●佐藤クリニックの周産期死亡率は全国平均の半分
超音波検査で羊水の量を測ることと、長い時間モニターをつけるNST、この二つの方法を組み合わせることが、今の産科医療の中ではお腹の赤ちゃんの状態が一番よくわかる検査方法だと認められています。佐藤クリニックではこの2つの検査方法を駆使して赤ちゃんの異常を早期発見し、一般的に1000に対し4.5人とされている周産期死亡率を2.7人(最近5年間の平均)と半数近くに抑えることができます。

●他の病院が全員にNSTをすることの困難な理由

この検査をすれば比較的早い段階で赤ちゃんの異常を見つけることができる可能性が高くなるにも関わらず、どこの病院でも取り入れることができないのには理由があります。

妊娠高血圧症候群など妊娠経過に異常が認められた場合は、どこの病院でも時間をかけてモニター検査をします。しかし、それまで特に異常が認められず正常だと診断されている方すべてに検査をするのは、限られた時間内で多くの患者さんをみななければならないことや、機材の台数をそろえたり、検査スタッフを確保しなければならないことで、病院側は大変なエネルギーと費用が必要となるからです。世界でもトップレベルの日本の産婦人科医療がさらに高度な医療を目指し、今まさに迎えている限界を越えていくには、このような問題をどうクリアしていくか？が今後の大きな課題となってくるのは間違いありません。

周産期死亡率をどうとらえるか

周産期死亡率について、全国でみると1000人に対し4.5人という数値データが出ていますが、これを

数値として捉えるのではなく、「ひと」として捉えていくことがとても大切なことと考えています。

妊娠し、元気な赤ちゃんを授かることはすべてのお父さん、お母さんが願っていること。赤ちゃんが健康であることと、危険な状態になることは、当事者たちにとってみれば天国と地獄の差があります。

何よりも安全に、そして元気な赤ちゃんを出産するというのが一番大切なことなのです。佐藤クリニックは今後もこれまでと同様、このことに全力を注いでいきたいと思えます。



オススメスイーツ応募企画 スイーツ情報大集合!

思わずゴックン!
すぐにでも食べたいスイーツがたくさん!

前号の企画「院長に教えてあげよう!あなたのオススメスイーツ」に参加して下さった皆さん!
本当にありがとうございました。

実に70名の方から84種類ものスイーツを紹介していただきました。(3月3日現在)

お店のホームページを印刷して同封して下さった方、パンフレットを同封して下さった方、心温まるお便りや写真を添えて下さった方、そしてちゃっかり身内のお店を紹介して下さった方などたくさんの方の情報をありがとうございました。

北海道から沖縄まで全国のスイーツ、どれもこれも本当においしそうで、すぐにでもお店に飛んで行ったり、ネットでお取り寄せしたい気分です!

今回はここにほんの少しですが、皆さまにもご紹介いたします。



もっとも多くの方から
オススメしていただいた
スイーツ堂々のNo. 1は
三中井(彦根市)
「オリンピア」

(店舗情報)
〒522-0064 彦根市本町1-6-28
TEL.0749-22-5953



その他に複数の方からのオススメいただいたのが

- ★ダブルベ・ボレロ(守山市)の「アイアシエツク」
- ★丸喜屋(長浜市)の「千代子もち」
- ★パティスリー・ル・ミエル(長浜市)の「フルーツタルト」
- ★同じくパティスリー・ル・ミエル(長浜市)の「ロールケーキ」
- ★養老軒(岐阜県加茂郡)の「フルーツ大福」
- ★HARBS(全国各地)の「ミルクレープ」

うなずいている方も多いのではないのでしょうか?

今後、皆さまからいただいた情報をもとにレポートできればと思っています。どうぞお楽しみに!





「USJスタジオパス」 ご当選おめでとう ございます！

たくさんのご応募 ありがとうございました！

3月3日におこなった「USJスタジオパス」
ペア1組分抽選の結果、ペンネーム サクさん が
見事当選されました。
サクさん、どうぞ楽しい1日を過ごしてきて下さい！

ちなみにサクさんオススメのスイーツは、
京みずは（長岡京市）の「いちご大福あずき」
でした。

好きな香りで心地いい暮らしを…

アロマテラピー

コートを一枚ずつ脱ぎながら、
希望に満ちて春はやってきます。

お引越し、入学、転勤等々、春は新しい生活を始められる方が多いかと思えます。でもその分慣れないことに戸惑ったり、不安やドキドキがいっぱいですね。赤ちゃんにとってもそれは同じこと。おかあさん、ちょっとひとつ大きく深呼吸して、赤ちゃんのお話に耳を傾けてみましょう。

なんだか訳も分からず不安になる日。そんなときにはアロマテラピーの力を借りてみませんか。佐藤クリニックさんでは病室で使っていただけるようにアロマランプの貸し出しをされています。ご自分のお好きな香りを使っていただくのももちろんですし、何を使っていいかわからないという方のために、おれんじびーるが特別にブレンドした香りがありますよ。まずはお試しになってみてくださいね。使い方は簡単。アロマランプの上皿に、エッセンシャルオイルを数滴ポーション、スイッチを入れてやさしい明かりとともにほのかな香りを楽しみましょう。

香りで元気な毎日。身近なところでアロマテラピー、はじめてみませんか？

西島 かおる

アロマテラピーのお店 おれんじびーる代表
(社)日本アロマ環境協会認定 アロマテラピーインストラクター

「アロマテラピー、始めてみたいな」という方は、毎月第4水曜日午前、アロマ教室をしています。毎回、暮らしに役立つアロマクラフトを作ってもらいます。ぜひご参加くださいね。

●アロマテラピーのお店 おれんじびーる
住所：長岡市元浜町22-9
電話：0749-63-0877 <http://www.orpl.jp>

「リラックス」しばらくはゆっくりしましょうね！

ラベンダーやベルガモット、イランイランをブレンドしています。ほんのり甘いお花の香りが、お産で緊張した心と体の疲れを解きほぐしてくれます。病院にいる間くらい、周囲の方にどっぷり甘えて、みんなお任せして、存分にお休みください。

「エナジー」新しい命を迎えて、さあスタート！

ペパーミント、グレープフルーツ、ローズウッドを使っています。さわやかな香りで身も心も元気づけてくれますよ。大役を終えてホッとするとともに、「さあこれからどうなるんだろう」お産の後はちょっぴり不安になりますね。そんな不安をやさしく和らげて、エネルギーチャージ。「大丈夫よ」と新しい生活へあなたの背中を押してくれる香りです。病院からおうちに帰ったら、時にはひとりでお風呂に入る時間を持ちましょう。そんなときに、このエッセンシャルオイルを湯船に5滴たらして、ゆっくりとお風呂を楽しんでください。

STAFF ROOM

春ですね・・・

日中は暖かくやわらかな日が差し込み、ようやく「春らしさ」を感じるようになってきましたね。

街では新しい制服を身にまとった学生さんや、新品のスーツ姿がまだどこことなく
ぎこちない感じのするフレッシュマンをよく見かけるようになりました。

希望や夢に期待を膨らませる彼らを見てると、ギュッと気持ちが引き締まる思いです。

今回はそんな「春」をテーマに、スタッフたちが「春に連想することは何か？」

ということ聞いてみました♪

テーマ 「春といえば〇〇」



フロント
三宅 真紀

「春」といえば…何か新しいことをスタートさせたい季節。今春こそは、これ!!っていうモノが見つければいいなあ。



フロント
橋本 知美

春といえば…ホタルイカ!? スーパーで見つけるとついつい買ってしまいます。(昔は苦手だったのに…) ツルンと酢味噌で頂くと、食の春を感じます。



フロント
森 さやか

春といえばお花見! 毎年県外に出掛け、きれいな桜に癒されています。今年はまだどこへ行くか未定ですが、今から楽しみです。



フロント
大橋 恵

春といえば、「桜」ですね!! お花見よりも夜桜の方がきれいで好きです。



フロント
児玉 早織

春といえば花粉症ですね…今年から、とうとう花粉症になってしまいました。



フロント
那須 めぐみ

「春」といえば…ちょうちょ 幼い頃は虫とりあみと虫かご持って夢中になって探っていました(笑) あの頃はどんだけ走りまわっても疲れなかったのに…



フロント
居林 由香利

春といえば…やっぱり桜ですね。夜桜見に、豊公園にいらしてみてください。どこからともなくBBQのいい匂いがしますよ。



フロント
寺田ひとみ

サクラ。ここ最近は、なかなか花見に行けていないので、今年は昨年生まれた2人目も連れて家族で花見に行きたいと思います。



看護師
宮本 砂織

春といえば正直憂うつ…。
黄砂や紫外線で
お肌トラブル続出。
苦手な蛙なんか出てくるし
散歩もオチオチ行けません。



看護師
中川 敬子

春といえば「散歩」。
気候が良くなると、とにかく歩
いていて気持ちがいい。
どこへでも歩いて出かけたくな
ります。



看護師
勝木 智子

春といえば“花粉”です。
3年位前から花粉症になりそれ
から毎年春に近づいてくると目
がしょぼしょぼ、鼻がグズグズ
…とてもつらいです。



看護師
河瀬 弥生

春といえば桜。
お花見もいいですが、
やっぱり桜もち！！
菓の塩味と小豆の甘みが合わさ
って最高です。



看護師
川崎 理香

春といえば「桜」！
花見最高！
桜の下で飲むお酒は
めっちゃくちゃおいしいです。



看護師
井口 佐恵子

「春」といえば桜。
私の住む町の堤防沿いは桜並木
で見事です。
今年は主人と二人出かけてみよ
うかな♥



看護師
大依 直美

春といえば入園。
嫌がらずに通園してくれるかな
…(孫)



検査技師
竹本 智子

春の歌といえば、ヒステリック
ブルーが歌う「春～spring～」
です。
高声に声をつぶしつつも、毎年
一度は歌いたくなる歌です。



検査技師
千野 浩美

春といえば“別れ”です。
卒業や会社の異動の多い季節な
ので、大切な仲間との別れが思い
出されます。
でもこの別れの後に、新しい
“出会い”が待っているんですね。



ナースアシスタント
吉崎 広美

「春」といえば入園・入学。
買い物へ行くと♪さくら咲いた
ら1年生～♪となっているバック
ミュージックに合わせてつつい
大声で歌ってしまいます。
陽気な私です(*^。^*)



ナースアシスタント
國本 まゆみ

「春」といえばやっぱり桜を見な
がらおいしいもの食べて、おい
しいお酒飲みたいで～す。



ナースアシスタント
中原 博子

今年の春は息子の入園式。
楽しみにしている息子の姿を見
てさびしくなる母心。
複雑な思いです。

